卒業論文

就業困難を経験する若者

――A 氏のライフヒストリーから――

2013 年度入学

九州大学　文学部　人文学科　人間科学コース

社会学・地域福祉社会学専門分野

2017 年 1 月　提出

要約

本論文は、就業困難経験者の、就業に至るまでの意思決定のプロセスを明らかにすることを目的とした。また、そのことを通して、現代社会において、就業困難を経験することが、その後の就業にどのような帰結をもたらすのか、ということについても考察した。

はじめに、本論文における問題意識を示した上で、ニートやフリーターとも関連させながら、本論文で用いる「就業困難」という言葉について定義を行った。

次に、「若者と就業」というテーマの先行研究を整理した。その際、(1) 若者の就業と社会構造的な背景、(2) 若者の就業と社会的変数、(3) 就業に関する若者の意識や内面、という大きく 3 つに分類しながら整理した。また、本論文は、主に (3) の分類に位置づけられるものの、分析、考察においては、(1)、(2) の視点も加味して行った。その際に、主体と構造のリンクという観点で行われた先行研究についても検討した。

続いて、就業困難な状態にある若者を対象とする支援制度について概観し、今回の調査対象者となる A 氏が主に利用した、地域若者サポートステーション（以下、サポステとする）についてその概要を述べた。また、A 氏への聞き取りに先立ち、A 氏が利用したサポステを運営する C 会の代表理事 B 氏に対し、主にサポステに関する聞き取りを行った。そこから、サポステにおいて、かつては若者の社会的自立までを含めた支援を行っていたが、次第に職業的自立にのみ焦点を置いた支援体制となっていったことが分かった。

そして、本論文の目的を達成するため、分析の手法として採用したライフヒストリー分析について簡単に整理した。また、A 氏のライフヒストリーから、「どのようにして就業困難な状態に陥ったのか」「どのようにして就業困難な状態から抜け出したのか」を分析の焦点とすることについて述べた。

続いて、分析、考察に先立ち、A 氏のライフヒストリーを記述した。その際、A 氏のライフヒストリーを、「高校・予備校時代まで」「ひきこもり期」「脱ひきこもり期」「サポートステーション利用期」「就業後現在に至るまで」と区切りながら整理した。

そこから、3 つの柱を立て、分析、考察を行った。はじめに、「どのようにして就業困難な状態に陥ったのか」「どのようにして就業困難な状況から抜け出すことができたのか」ということを明らかにし、その際の A 氏の意思決定のプロセスやその背景に注目し検討していった。次に、A 氏の事例をもとにして、就業困難を経験するということが現代の日本社会においてどのような意味を持つのかについて考察した。そこから、就業困難を経験する

ことで、その後不安定な労働環境に身を置き続けていかなければならない可能性があることが推測された。続いて、サポステが若者就業支援について果たす役割について考察した。社会的自立を含めた支援体制から、職業的自立のみの支援体制へと変わっていったというB氏の語りを踏まえ、サポステの可能性について述べた。

最後に、当初の問題意識と調査結果のずれ、本論文の限界、さらに今後の研究の展望について述べ、本論文の結びとした。

目次

1　問題意識　・・1
1.1　本論文の目的　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
1.2　本論文の背景　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2
1.3　「就業困難」の定義　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・4
1.4　就業困難な状態にある若者の全体像　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・6
2　先行研究　・・9
2.1　先行研究の分類　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9
2.1.1　若者の就業と社会構造的な背景
2.1.2　若者の就業と社会的諸変数
2.1.3　就業に関する若者の意識や内面
2.2　本論文での視点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・14
2.3　主体と構造のリンク　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・15
2.4　小括　・・・16
3　地域若者サポートステーション　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
3.1　「若者自立・挑戦プラン」　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・17
3.2　地域若者サポートステーションの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19
3.3　地域若者サポートステーションでの聞き取り　・・・・・・・・・・・・・・・20
3.3.1　聞き取りの概要
3.3.2　聞き取りの結果
3.3.3　聞き取り結果の考察
3.4　A 氏のライフヒストリーに向けて　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・22
4　分析の方法と焦点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
4.1　分析の方法　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
4.2　分析の焦点　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
5　A 氏のライフヒストリー　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
5.1　A 氏に対する聞き取りの概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
5.2　A 氏の基本属性　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26
5.3　高校・予備校時代まで　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・26

5.4　ひきこもり期　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29
5.4.1　ひきこもり生活の様子
5.4.2　両親の離婚と「平穏な」生活の終わり
5.5　脱ひきこもり期　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
5.5.1　外への憧れ
5.5.2　就業への意識
5.5.3　レールから外れているということ
5.6　サポートステーション利用期　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
5.6.1　サポートステーションでよかったこと
5.7　就業後現在に至るまで　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
5.7.1　仕事のやりがい
5.7.2　仕事をする上で大変なこと
5.7.3　これからの展望
5.8　小括　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・42
6　就業困難を経験するということ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
6.1　A 氏の就業困難経験　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・43
6.1.1　就業困難に陥る
6.1.2　就業困難から抜け出す
6.1.3　A 氏の事例の評価
6.2　就業困難を経験するということ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
6.3　地域若者サポートステーションの役割　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・49
7　本論文の結び　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・51
7.1　本論文の問題意識と今回の調査結果から考えられること　・・・・・・・・・・51
7.2　本論文の限界　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
7.3　研究の展望　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52
［注］　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53
［文献］　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・53